

**全県11月例会**

【開催日】 11月11日 【参加者総数】 42名 (うちゲスト1名)  
【会場】 松江テルサ



青年経営者全国交流会まで11ヶ月と迫ってまいりました。本日は、9月に開催されました青全交 in TOYAMAの実行委員長高橋賢氏を報告者に青全交の意義と結果について報告を頂き、次年度の開催されるにむけて有意義な時間となりました。

高橋さんから得られたことはたくさんありますが、やはり一番大きなことは全国が感じられることだと思います。普段我々は高いお金を払って出かけて行き情報や学びを仕入れに出かけます。地元で全国大会を開催すれば向こうからやってきます。こんなチャンスは、有りませんよ！「ここに参加しなくてなんとする」です。

報告の途中途中で、参加者アンケートを見せてくださいましたが、力

強い字じゃないですか字の太さにも情熱を感じることが出来ます。

又、グループ討論では、富山の参加者から報告があり感想や意見を出し合いました。最後に今後の展開と実行委員会のメンバーを発表いたしました。

〈記 原田 守〉

**雲南地区会11月例会**

【開催日】 11月8日 【参加者総数】 40名 (うちゲスト22名)  
【会場】 雲州そばん伝統産業会館

雲南地区会は、第一回例会を昨年11月奥出雲町で開催することができました。自主開催に当たりましては、松江支部、出雲支部の先輩会員に種々ご指導をいただきました。グループ長は雲南地区会の会員が担当するように配置しましたが、経験の浅いグループ長には、松江出雲のベテラン会員に補佐として支えていただきました。結果会員28名ゲスト22名の参加をいただきとても盛会となりました。

報告者は(有)タイノス 安部社長と、(株)明和 園山社長の二人の会員が「さあ 出番ですよ！」のタイトルで、自社の事業内容と経営の現状及び課題、将来の夢について報告しました。

リーマンショック直後の受注激減の乗り切り体験、生産拠点の海外シフト及び円高に伴う受注減少など、製造業の現状についての報告は両社共通した内容で、参加会員も真剣になって聞きました。口外したくない内容を、報告者はとても真摯な姿勢で報告され、多くの会員が共感と感動を覚えました。

報告者と社員さんとの関わり方は、事業規模と企業文化の違いから両社微妙に異なっていましたが、そのことは各会員の学び(自社比較の参考)になりました。社員さんと力を合わせて、現状の苦難を乗り越えるための努力は、参加会員が抱えている課題と感じました。

将来の夢は自社ブランド商品を持ち、地域での雇用と発展に尽くしたいとの熱い内容で報告は締めくくられました。その後に行われたグループ討議は、困難克服の課題などを中心に熱心かつ活発に行われて、学び多い例会になりました。ゲストとして開催地の経営者はもちろん行政の人も参加して、地域振興に繋がる共通の課題などについて意見交換しました。

その後の懇親会は、この流れで盛り上がり、楽しく有意義なものになりました。

このたびの自主例会開催で、運営の手法やグループ長の育成など更に部会のスキルアップが必要と自覚しましたが、更に前進して例会を開催し会員を増強する、そのことでこの地域に同友会運動を根付かせ、地域の発展成長に繋がりたいと地区会会員が思ったことは間違いありません。今後ともご指導ご鞭撻をお願いします。

〈記 景山孝司〉



**松江支部12月忘年例会報告**

【開催日】 12月13日 【参加者総数】 46名  
【会場】 松江テルサ (うちゲスト2名)

「激動の一年を振り返って」～やっばあ来年もがんばらんといけんわ～ というタイトルで恒例の忘年例会を開催しました。忘年会に先立ち、ミニ例会形式でグループディスカッションを行いました。平成23年最後の例会にふさわしく同友会の真髄であるディスカッションに始まりディスカッションに終わる有意義な活動となりました。

豪雪に始まり、東日本大震災、タイの洪水と多くの災いに見舞われ、政治経済が不安定な一年を自社がどのように課題に取り組みどのように成長したか、そして来年取り組まなければならない課題を大いに語り合う機会となった例会でした。そして、何よりも平成24年10月に開催される青全交成功に向けて、松江支部がより結束を強める懇親の場として有意義な忘年例会であったと思います。設営させて頂いた組織委員会の使命は仲間を250名に増やすことでもあります。この場を借りて「学びの仲間を増やそう」～ひとりが一人で250～へのご協力をお願いして例会報告とさせていただきます。

〈記 加納 孝通〉



**第1回 島根発学生起業家プロジェクト勉強会**

【開催日】 1月20日 【参加者総数】 145名 (プレゼンター5名、会員・中小企業経営者70名、学生40名、一般社員30名)  
【会場】 松江テルサ



1月20日、企画委員会は中小企業経営者と、島根大学の学生をはじめ、これから地域を担う若者との交流を初期目的としたビジネス起業プランプレゼン&グループ討論会を行いました。当日は、プレゼンター5名の他、40名の学生、同友会会員他、地域中小企業経営者70名、行政、団体職員、一般企業若手社員等30名、テレビ局、新聞社等地元マスコミ各社、SNSユーストリームで実況中継も行われ大いに盛り上がりしました。本企画の最終目的は「危機意識の高揚」から「中小企業間、産学官の“真”の連携」「新規ビジネスに挑戦する地域へ向けた土壌づくり」です。

東日本大震災で一瞬にして故郷を無くした東北と戦後70年掛けて故郷を無くそうとしている島根は重なって見えます。今こそ地域中小企業がそれぞれの強みを持ち寄り新しいビジネス、新しい地域づくり真剣に取り組まねば手遅れになるという危機感、熱い思いが込められています。次回2月22日はブラッシュアップしたプランを披露し本でビジネス起業を目指します。ご期待ください！

〈記 野津 積〉

**松江支部1月例会報告**

【開催日】 1月27日 【参加者総数】 82名  
【会場】 松江テルサ (うちゲスト30名)

今回は奥出雲のエヌ・イー・ワークス社長で島根同友会の会員でもある三澤誠氏に報告して頂きました。

三澤社長の注目度の高さもあり、80名を超える参加者で会場は熱気に溢れていました内容も三澤社長の「地域に対する熱い思い」が非常に良くわかる内容で報告後のグループ討論も大いに盛り上がりしました。

地域における中小企業の役割とは？中小企業家の使命とは？経営理念の重要性とは？等々、日頃同友会で学んでいる根源的な問題を身近にそして現実的に考える良い機会になりました。「日常の仕事自体が理念の実践である。」と語る三澤社長の言葉にハッとさせられた経営者も多かったのではないのでしょうか？

最後に、内田(雄)幹事が「質の高い例会」を目的に掲げ、座長・室長を配して臨んだ1月例会。現状では、概ね目的達成できたのではないかと感じています。今後も事前準備を丁寧に行い、10月の島根青全交に向かっていきます。ありがとうございました。

〈記 瀬崎 剛〉

**事務局からのお知らせ**

**3月松江・出雲2支部合同例会**

開催日：3月23日(金)午後6時30分から  
講師：尾崎俊也氏【アースサポート(株)代表取締役】  
演題：「強い会社は、人財育成力がものをいう」

**定時総会**

開催日：5月22日(火)午後5時から(予定)  
基調講演講師：広浜泰久氏【(株)ヒロハマ代表取締役会長】

**青全交実行委員長の「熱き思い」ブログのお知らせ**

<http://seizenko-shimane.sblo.jp/>

**新入会員のご紹介**

11～2月の新入会員様が9名、  
2月末現在の会員数は182名です。

- 今岡 克己 様 — (株)ワコムアイティ 代表取締役
  - 錦織 正明 様 — 錦織酒店
  - 錦織 伸行 様 — 錦弘堂(有) 代表取締役
  - 作野 路代 様 — サロン叶 代表
  - 角井 伊作 様 — いさやPlus 代表
  - 須山 耕二 様 — 須山建設(有) 課長
  - 曾我 好春 様 — 湯迫温泉旅館
  - 松島 康裕 様 — (有)日成プラスター COO
  - 奥野 敦史 様 — サンベ電機(株) 大田営業所所長
- ～皆さまのお知り合いの経営者ご紹介ください～